

平成29年度病虫害発生予報第10号

平成29年12月13日
鳥取県病虫害防除所

予報の概要

区分	農作物名	病虫害名	発生時期	予想発生量
野菜	ラッキョウ	白色疫病	平年並	平年並
	イチゴ	うどんこ病	平年並	平年並
		灰色かび病	平年並	平年並

気象予報（抜粋）

1か月予報（12月9日～1月8日：12月7日、広島地方气象台発表）

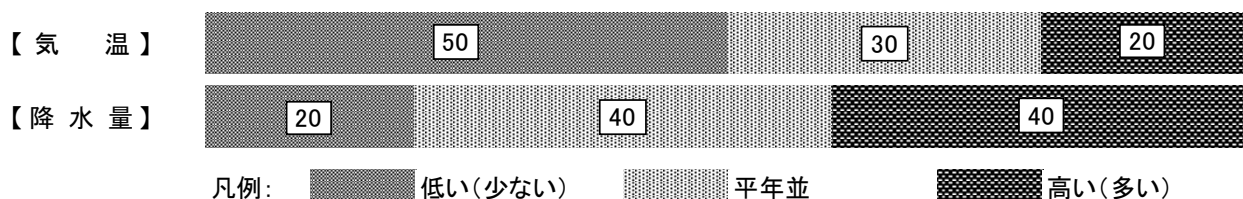
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

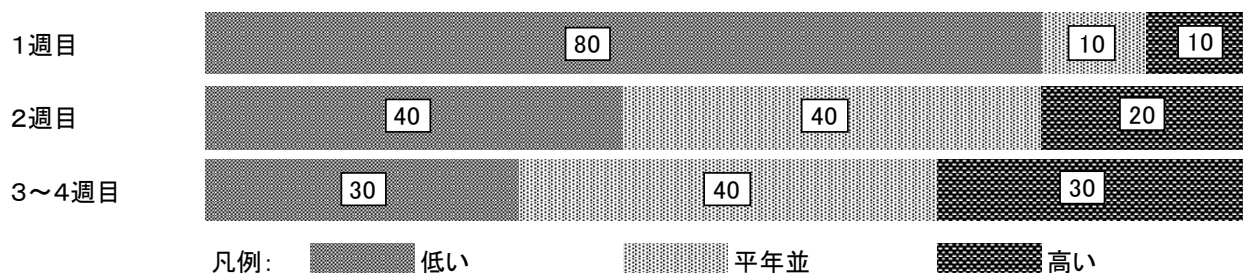
向こう1か月の平均気温は、低い確率50%です。

週別の気温は、1週目は、低い確立80%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



野菜

[ラッキョウ]

1 白色疫病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。

イ 本病は、冬季に平均気温が高めで、降雨量や積雪量が多いと発病が増える傾向にある。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病の発生を防ぐため、年内の防除を徹底する。

イ 12月には、フォリオゴールド1, 000倍液、ランマンフロアブル2, 000倍液などを散布する。

ウ 1～2月の連続降雨後及び雪解け時に、フォリオゴールド1, 000倍液、ホライズンドライフロアブル1, 000倍液、フロンサイド水和剤1, 000倍液などを追加散布する。

エ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一成分の薬剤の連用は避ける。

[イチゴ]

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、現地調査ほ場において発生は認められていない。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発後の防除は難しいため、予防防除に重点を置く。薬剤は、表1を参考に使用する。

イ 既に本ほ場で発生している場合は、薬剤を3～5日間隔で輪番散布する。その後、病勢が抑制されれば、7～10日間隔の薬剤散布に戻す。

ウ QoI剤（アミスター20フロアブル及びストロビーフロアブル）は、機能性展着剤と混用すると薬害が発生しやすいので、これらの展着剤は加用しない。

エ DMI剤（ラリー水和剤など）を使用する際は、カリグリーンなどを混用すると防除効果が高まる。

オ 硫黄粒剤のくん煙処理は、発病後の効果は低いため、発病前からの予防的な処理を行う。

カ 薬剤散布は、薬液が葉裏や芽の間にもよくかかるように丁寧に行う。

キ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表1 イチゴうどんこ病の本ぼにおける主な防除薬剤

農薬系統分類	FRACコード	薬 剤 名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前 日数
無機硫黄	M2	硫黄粒剤	6～16 g /2000m ³	—	—
		イオフロアブル	2,000倍	—	—
有機銅	M1	サンヨール	500～1,000倍	6	前日
アズリノピリミジン系	9	フルビ ^o カフロアブル	2,000～3,000倍	3	前日
		フルビ ^o かくん煙剤	50g/500m ³		前日
グアニジン系	M7	ヘルコート水和剤	4,000倍	5	前日
		ヘルコートフロアブル	2,000～4,000倍		前日
グアニジン系・ ヒドロキシアニリド系	M7・17	タ ^o イマジン	2,000倍	3	前日
SDHI 剤	7	アフェットフロアブル	2,000倍	3	前日
QoI 剤	11	アミスター20フロアブル	1,500～2,000倍	3	前日
		ストロビーフロアブル	3,000～5,000倍	3	前日
QoI 剤・SDHI 剤	11・7	シク ^o ナムWDG	2,000倍	2	前日
DMI 剤	3	ラー水和剤	4,000～8,000倍	3	前日
		ルビ ^o ゲン水和剤	4,000倍	3	前日
		トリフミン水和剤	3,000～5,000倍	5	前日
		トリフミンジ ^o ェット	50 g /400m ³		前日
	3・U6	スコア顆粒水和剤	2,000倍	3	前日
		ハンチョTF顆粒水和剤	2,000倍	2	前日
	ハンチョTFジ ^o ェット	50g/400m ³			前日
キノキサリン系	M10	モレスタン水和剤	3,000～4,000倍	2	前日
チアゾリジン	U13	カ ^o ッテン乳剤	5,000倍	2	前日
脂肪酸グリセリド	—	サンクリスタル乳剤	300～600倍	—	前日
無機化合物	NC・M1	ジ ^o ーファイン水和剤	750～1,000倍	—	前日
	NC	カリク ^o リーン	800～1,000倍	—	前日
	NC	ハーモイト水溶剤	800～1,000倍	—	前日

2 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、現地調査ほ場において発生は認められていない。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 枯れた下葉や病果は早めに除去する。

イ 하우스内が20℃前後で多湿になると多発しやすいので、随時、通風換気を行い、必要以上のかん水は避ける。

ウ 使用する薬剤は、表2を参考に7～10日間隔で輪番散布する。

エ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

表2 イチゴ灰色かび病の本ほにおける主な防除薬剤

農薬系統分類	FRACコード	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前日数
有機銅	M1	サンヨール	500倍	6	前日
アズリノリミジン系	9	フルビカフロアブル	2,000～3,000倍	3	前日
		フルビカくん煙剤	50g/500m ³		前日
ジカルボキシミド系	2	ロブラル水和剤	1,500倍	4	前日
		ロブラル500アグア	1,000～1,500倍		前日
		ロブラルくん煙剤	100g/300～400m ³		前日
		スミレックス水和剤	2,000倍	3	前日
		スミレックスくん煙顆粒	6g/100m ³		前日
SDHI剤	7	カンタストライフロアブル	1,000～1,500倍	3	前日
		アフェットフロアブル	2,000倍	3	前日
QoI剤	11	アミスター20フロアブル	1,500倍	3	前日
		ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000～3,000倍	3	前日
QoI剤・SDHI剤	11・7	シグナムWDG	1,500～2,000倍	2	前日
フェルビロール系	12	セイビアフロアブル20	1,000～1,500倍	3	前日
フェルビロール系・ ヒドロキシアニド系	12・17	ジャストミート顆粒水和剤	2,000～3,000倍	3	前日
グアジソン系	M7	バルコートフロアブル	2,000倍	5	前日
グアジソン系・ ヒドロキシアニド系	M7・17	ダイヤモンド	2,000倍	3	前日

[おしらせ]

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散には十分注意しましょう。

農薬の詳しい登録内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(http://www.famic.go.jp/)

なお、農薬の使用や防除指導等に際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

<鳥取県病虫害防除所ホームページ>

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病虫害発生予察情報、フェロモントラップ調査結果（ナシのシンクイムシ類）などの参考情報、病虫害の診断方法などの情報をお知らせしていますので、御利用ください。

<お問い合わせ>

普通作物関係：〒680-1142 鳥取市橋本 260
鳥取県病虫害防除所
(TEL：0857-53-1345、E-mail：boujyot@titan.ocn.ne.jp)
もしくは
鳥取県農業試験場環境研究室
(TEL：0857-53-0721、FAX：0857-53-0723)

果樹・野菜・花き関係
〒689-2221 東伯郡北栄町由良宿 2048
鳥取県園芸試験場環境研究室
(TEL：0858-37-4211、FAX：0858-37-4822)

※予報第11号の発表は、2月7日（水）の予定です。